

第2回協議会の結果の公表について

第2回協議会議事要旨

第2回協議会資料(公表用)

第 2 回 国道 357 号社会実験推進協議会 議事要旨

日 時 : 平成 16 年 9 月 24 日 (金) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所 : 千葉県自治会館 大ホール

出席者 : 日本大学名誉教授

千葉県商工会議所連合会事務局次長

船橋市臨海工業地区連絡協議会勤労課長

市川市道路交通部次長・船橋市道路部参事・習志野市都市計画課主幹

(国交省) 関東地方整備局道路計画第二課長・千葉国道事務所所長・東京湾岸道路事務所所長

(日本道路公団) 東京建設局企画調査課課長・東京管理局営業企画課課長, 交通技術課課長,
千葉管理事務所所長

(千葉県) 県土整備部道路計画課課長、千葉地域整備センター所長、葛南地域整備センター次長

1. 第 1 回協議会の結果について

議事要旨の内容及び資料修正案について特に異議なし。この資料を公表資料とする。

2. 効果検証調査の考え方について

アンケート調査によりユーザー(一般車、物流業者等)の認識をキャッチアップする必要がある。

漫然と調査を実施するのではなく、目的を持って測定を行う必要がある。

国道から高速道路への転換について、時間帯別に分析する必要がある。

年末年始の期間や休日と平日の違いを意識して、一般車利用者と物流業者各々の行動や認識の変化に着目する必要がある。

生活道路における状況の変化についても着目する必要がある。

3. 社会実験の詳細(案)について

1) 割引料金について

ETC 社会実験料金表(案)について特に異議がないため「案」をとり ETC 社会実験料金表とする。

2) 交通量等の調査の実施について

交通調査において人手観測の回数は妥当だと考えられる。機械観測による交通量調査を中心とした体制づくりやデータ分析を行う必要がある。

渋滞調査箇所として、市川市の高浜交差点など自治体の要望箇所について、現状データを踏まえて追加を検討する。

京葉道路穴川 IC から東関道を利用していた人が、実験だということで一般道を使って湾岸習志野 IC を利用するようにならないか。このような変化も分析するのであれば、千葉船橋海浜線の交通調査地点をもっと千葉よりにすべきではないか。

3) アンケート調査の内容・方法について

他の社会実験のアンケート調査を参考にし、今回のアンケート調査に活かした方が良い。
アンケート調査においては車種や発着地も把握した方が良い。

4) チラシ・ポスターのデザイン・内容について

チラシ表面にも、裏面同様に割引対象ケースが視覚的にわかるように、図を修正した方がよい。
割引対象について湾岸習志野 IC を「利用した」と「出入りした」が混在している。「利用した」は習志野本線料金所も含むという誤解を与えかねないので、「出入りした」で統一されてはどうか。
「割引対象区間：湾岸市川 IC～湾岸習志野 IC」と標記すると、首都高からそのまま東関道を利用する方が対象とならないような印象を与えるため、「湾岸習志野 IC を出入りした」という表現を強調した方がよい。

ポスター・チラシや横断幕・立て看板のデザインの修正等は事務局に委任する。

5) 広報の場所・手段について

チラシの設置箇所は千葉県内のみでなく、葛西臨海公園などの都内施設への設置も検討する。
横断幕の設置箇所として国道 357 号以外の国道 14 号や首都高での設置についても検討する。
認知度を高めるため、物流業者にポスターを貼ってもらう、休日のドライバーに向けラジオ放送をするなどを考えたらどうか。
幕張メッセ等とタイアップできないか。

6) その他

実験の終了を明確にすることが重要である。

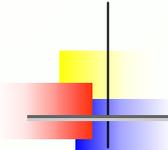
以上

第2回

国道357号社会実験推進協議会

- 社会実験の詳細(案)について -

平成16年9月24日(金)



目次

1. 社会実験の概要について P2

1-1. 社会実験の概要

1-2. ETC社会実験料金表(案)

2. 効果検証調査について P5

2-1. 検証項目と実施する調査

2-2. 検証調査の基本方針

2-3. 交通量調査

2-4. プローブ調査

2-5. 渋滞調査

2-6. アンケート調査

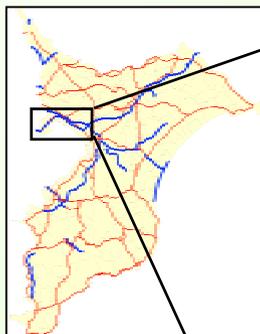
3. 広報活動について P12

3-1. 広報活動とスケジュール(予定)

1. 社会実験の概要について

1-1. 社会実験の概要

実験期間 : 平成16年11月1日(月)0:00 ~ 平成17年1月31日(月)24:00 (3ヶ月間)
実施時間 : 24時間(終日)
対象車両 : ETC利用車(湾岸習志野ICを利用した車両)
対象区間 : 東関東自動車道 湾岸市川IC ~ 湾岸習志野IC間
割引率 : 約5割



1-2. ETC社会実験料金表(案)

湾岸市川IC		現行 料金	ETC 社会実験 料金 (案)	割引率	湾岸習志野IC
	軽自動車	350	170	(約51%)	
	普通車	400	200	(50%)	
	中型車	450	220	(約51%)	
	大型車	550	270	(約51%)	
	特大車	850	420	(約51%)	



* 現行料金は平成16年8月末現在。

* 実験期間は平成16年11月1日(月)0:00から平成17年1月31日(月)24:00まで。

* 割引の対象となる車両は湾岸習志野ICを利用したETC利用車。

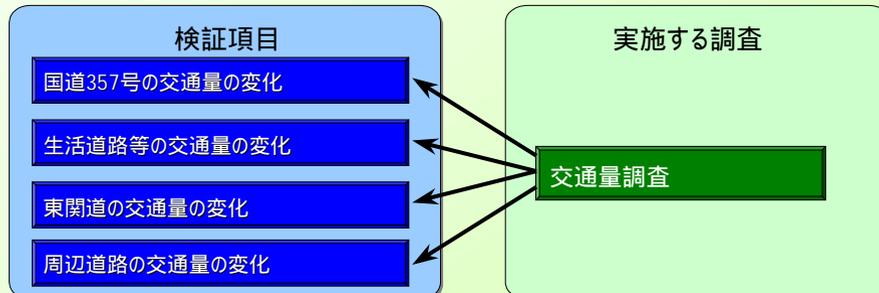
* 上表のETC社会実験料金は、現行料金の50%の金額を10円単位で切り捨てたもの。

2. 効果検証調査について

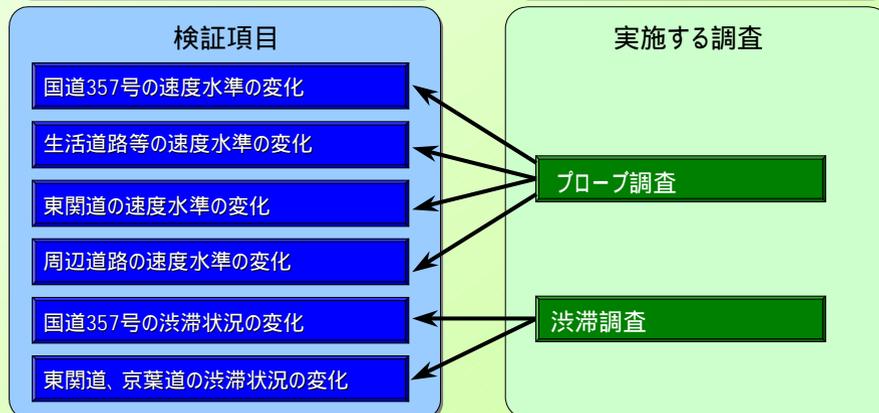
2-1. 検証項目と実施する調査

把握する効果に応じて、大きく6つの検証調査を実施します。

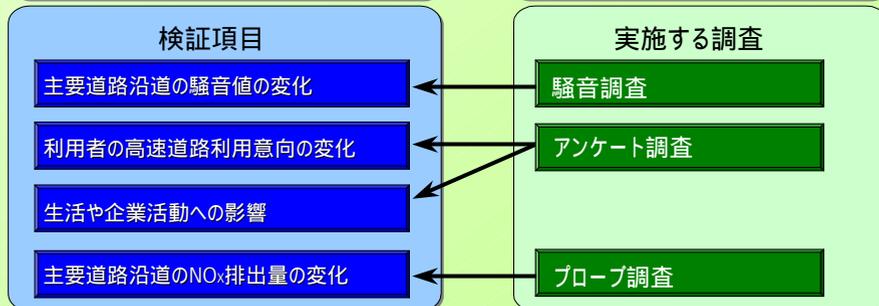
交通流動の変化の把握



走行環境の変化の把握



沿道環境の変化、 市民生活の変化の把握



2-2. 検証調査の基本方針

交通調査(交通量調査・プローブ調査・渋滞調査)

既設の計測機器を活用

- 道路上に設置されている計測機器(トラカン)の取得データを活用します。

機器では計測できない項目は人手調査

- 機器が設置されていない箇所、渋滞長、移動時間などの機器では計測できない項目は人手で計測します。
- データの信頼性向上のために、調査は実験前・実験中に複数回実施します。

人手調査予定期間

	調査予定期間(1回目)	調査予定期間(2回目)	調査予定期間(3回目)
実験前(平日2回)	平成16年10月18日(月)~29日(金) (上記期間のうち連続した2日)		
実験前(休日2回)	平成16年10月17日(日)・24日(日)・31日(日) (上記3日のうち2日)		
実験中(平日3回)	平成16年11月9日(月)~26日(金) (上記期間のうち1日)	平成16年12月7日(月)~17日(金) (上記期間のうち1日)	平成17年1月13日(火)~23日(金) (上記期間のうち1日)
実験中(休日3回)	平成16年11月7日・14日・21日・28日 (いずれも日曜日・上記4日のうち1日)	平成16年12月12日・19日 (いずれも日曜日・上記2日のうち1日)	平成17年1月11日・18日・25日 (いずれも日曜日・上記3日のうち1日)

* 毎月5日・10日、周辺施設などでのイベント開催時などの特異日は避ける。

* 調査実施予定日には、天候悪化や想定外のイベント開催などを踏まえて、調査予備日を設定する。

アンケート調査

ETC利用と属性に応じて大別した調査対象を設定

- アンケート調査対象として、地域住民・地域企業・一般利用者等を設定し、高速道路利用実態に応じた調査票作成と被験者抽出を行います。

調査は実験後半に実施

- アンケート調査は社会実験の後半に実施します。

2-3. 交通量調査

(国道357号の交通量の変化)

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査箇所
				実験前	実験中	実験後		
国道357号の交通量の変化	断面交通量	トラカンデータ	国道357号	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			車種別時間別方向別交通量を把握	~

(生活道路等の交通量の変化)

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査箇所
				実験前	実験中	実験後		
生活道路等の交通量の変化	断面交通量	トラカンデータ	(主)千葉船橋海浜線	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			車種別時間別方向別交通量を把握	~
		人手観測	市道(3路線)	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	車種別時間別方向別交通量を観測	

(東関東道の交通量の変化)

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査箇所
				実験前	実験中	実験後		
東関東道の交通量の変化	断面交通量	トラカンデータ	湾岸市川JCT ~千葉北IC間	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			車種別時間別方向別交通量を把握	-
ETC交通量の変化	IC出入ETC交通量	ETC利用データ	(東関東道) 湾岸習志野IC 習志野本線料金所 東関東道全体	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			車種別時間別ETC交通量を把握	-

(周辺道路の交通量の変化)

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査箇所
				実験前	実験中	実験後		
京葉道路の交通量の変化	断面交通量	トラカンデータ	篠崎IC~武石IC間	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			車種別時間別方向別交通量を把握	-
京葉道路のIC出入交通量の変化	IC出入交通量	人手観測	市川IC、船橋IC、原木IC、花輪IC、幕張IC、武石IC	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	車種別時間別方向別交通量を観測 観測は一方のみとし、逆方向は断面交通量の差引きにより算定	~
国道14号の交通量の変化	断面交通量	トラカンデータ	国道14号	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			車種別時間別方向別交通量を把握	~

2-4. プローブ調査

〔国道357号の速度水準の変化〕

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査 区間
				実験前	実験中	実験後		
国道357号の旅行速度の変化	旅行速度	定時プローブ	国道357号	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	GPS車載機搭載車両で走行調査 6時～20時の14時間 方向別に時間別交通量を把握	

〔生活道路等の速度水準の変化〕

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査 区間
				実験前	実験中	実験後		
準幹線道路の旅行速度の変化	旅行速度	定時プローブ	(主)船橋我孫子線 (主)千葉船橋海浜線	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	(同上)	~

〔東関道の速度水準の変化〕

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査 区間
				実験前	実験中	実験後		
東関道の旅行速度の変化	旅行速度	定時プローブ	東関東自動車道	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	(同上)	

〔周辺道路の速度水準の変化〕

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査 区間
				実験前	実験中	実験後		
京葉道路の旅行速度の変化	旅行速度	定時プローブ	京葉道路	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	(同上)	
国道14号の旅行速度の変化	旅行速度	定時プローブ	国道14号	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	(同上)	

2-5. 渋滞調査

〔国道357号の渋滞状況の変化〕

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査箇所
				実験前	実験中	実験後		
交差点渋滞の状況の変化	渋滞長 渋滞通過時間	人手観測	若松交差点 浜町2丁目交差点 日の出交差点	平日:2 休日:2	平日:3 休日:3	-	4方向 6時～20時の14時間	-

〔東関道での渋滞状況の変化〕

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査箇所
				実験前	実験中	実験後		
東関道における渋滞状況の変化	渋滞長 渋滞通過時間	機器観測	湾岸市川JCT～湾岸習志野IC間(本線)	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			本線上で発生する渋滞が対象	-

〔京葉道路での渋滞状況の変化〕

検証項目	調査項目	調査方法	調査対象	調査時期			備考	調査箇所
				実験前	実験中	実験後		
京葉道における渋滞状況の変化	渋滞長 渋滞通過時間	機器観測	篠崎IC～武石IC間(本線)	実験前・中・後の連続5ヶ月間 (平日、休日)			本線上で発生する渋滞が対象	-

2-6. アンケート調査

調査項目(案)	アンケート配布ターゲット		
	地域住民	地域企業	一般利用者等
東関東道の利用意向 実験参加者の利用実態 ・参加した理由、利用頻度、通常の利用経路(国道357号・京葉道・国道14号) ・トリップ目的、利用IC、発着地 実験非参加者の実態 ・参加しなかった理由、利用するための条件 共通項目 ・認知度、満足度、今後の高速利用意向、改善点・要望 ・実験期間中の実験地域内道路の混雑状況 (・料金の適正さ)			
交通行動の変化、生活への影響 ・交通行動面の変化:高速道路利用頻度、経路変更 ・生活面への影響:通勤・買い物などの所要時間の変化			
企業活動への影響 ・交通行動面の変化:高速道路利用頻度、経路変更 ・企業活動面への影響:所要時間の変化、経費の変化、業務圏域の変化など			
社会実験の認知度 ・認知の有無、認知時期、認知媒体			
沿道環境への影響 ・騒音や大気質の変化 ・大型車や通過交通の変化			
被験者	市川市、船橋市、習志野及び千葉市に在住の方から無作為に抽出	市川市、船橋市、習志野市、千葉市の物流業者など	不特定多数
調査方法	郵送配布/回収		協議会ホームページ
調査実施時期・回数	実験後半に1回		常時受付

3. 広報活動について

3-1. 広報活動とスケジュール(予定)

広報方法	概要	調整状況	スケジュール					
			H16 9月	H16 10月	H16 11月	H16 12月	H17 1月	
			10 20	10 20	10 20	10 20	10 20	
記者発表	実験1ヶ月前、実験直前に実験予告	調整中		●	●			
自治体広報誌	市川市、船橋市、習志野市、千葉市の広報誌に予告記事	調整中		←----- (適宜) -----→				
チラシ ポスター	チラシ配布	調整中		●				
	設置	調整中		●				
	設置	高速PA、公共施設、集客施設等に設置	調整中	←-----				
横断幕・立て看板	高速道路料金所など	調整中	←-----					
ラジオ・テレビ	千葉県の広報番組などで放送	調整中	←----- (適宜) -----→					
インターネット	協議会のホームページを開設 関係機関のホームページにリンク	調整中	←-----					
広報の 認知度調査	自動車利用車が立ち寄る施設(高速PA・鉄道駅・集客施設)で、ヒアリングにより広報の認知度を把握(時系列)	調整中		●	●	●	●	

図 交通量調査などの箇所(案)



凡例

	機械観測	人手観測	本線交通量から算定
[一般道路]			
断面交通量	■	■	-
渋滞調査 方向別交通量	-	●	-
[高速道路]			
IC 出入交通量	-	⊕	⊖
本線交通量 (全区間 車両感知器)	-		
騒音調査(参考)	-	◇	-

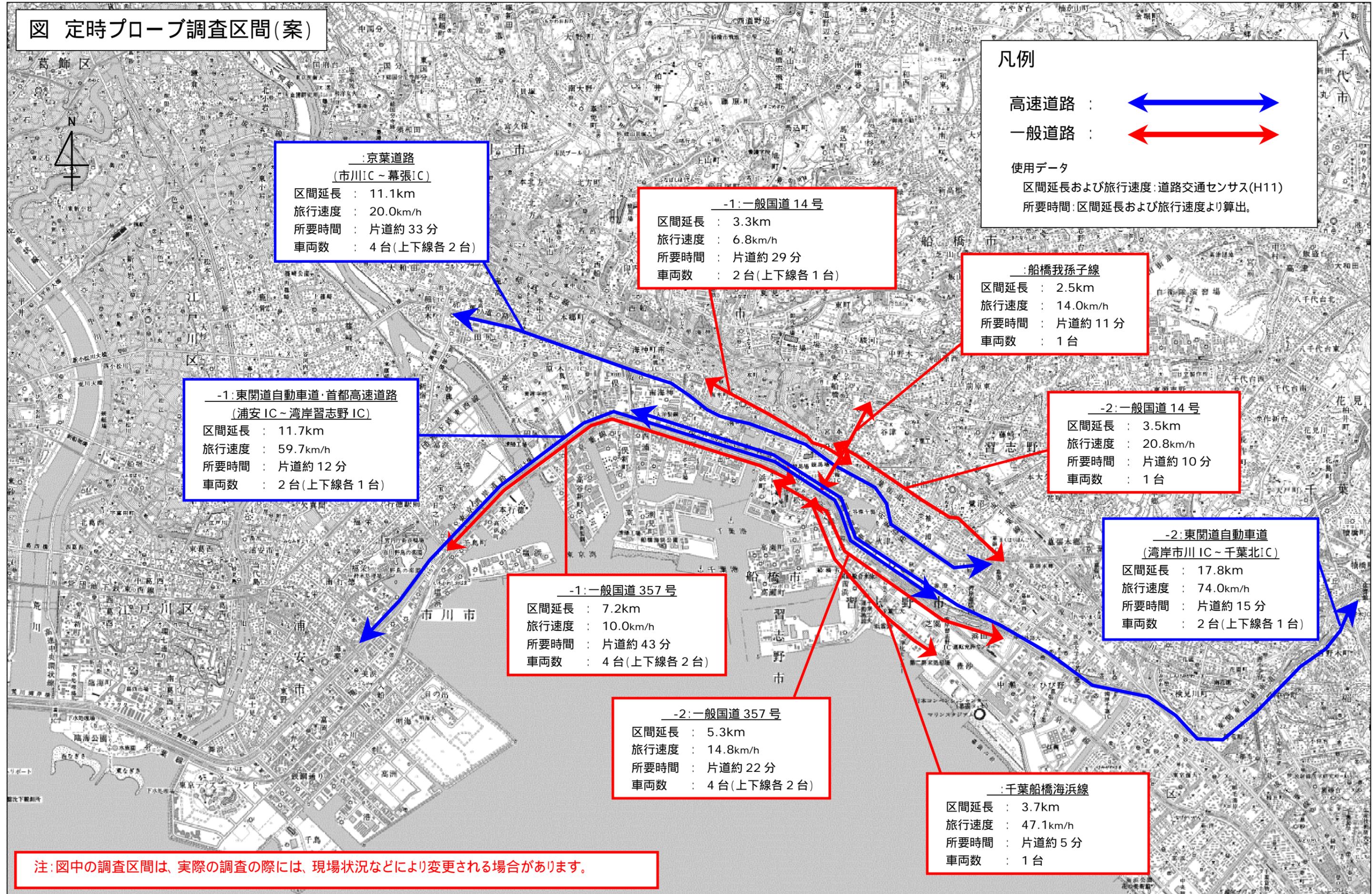
千葉方面へのIC 利用交通を観測

東京方向へのIC 利用交通を観測

注: 図中の調査地点は計画上の概ねの位置であり、実際の調査地点は現地状況などにより変更される場合があります。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平16総複、第292号)

図 定時プローブ調査区間(案)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平16総複、第292号)